

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

### 事業名【新】岐阜県フラッグシップハイスクール事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校総合支援係 電話番号：058-272-1111(内8657)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 26,500 千円 (前年度予算額：0 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	26,500	8,499	0	0	0	0	0	0	18,001
決定額	26,500	8,499	0	0	0	0	0	0	18,001

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

変化の大きい時代において、自ら課題を発見・解決し、資質・能力を絶えず磨き上げる能力の育成は喫緊の課題である。そのため、これまで実施してきた「地域共創フラッグシップハイスクール事業」と「グローバル探究実践事業」の両事業を統合し、地域をけん引する県立高校において、質の高い探究学習を実施することで、課題発見・解決能力や行動力・実行力、地域に対する誇りや愛着等の育成を図り、国際的素養を備えた地域の未来を担うリーダーの育成を目指す。

### (2) 事業内容

地域の関係機関（大学、研究機関、自治体、企業等）と積極的に連携し、ICT機器やビッグデータ等を効果的に活用しながら、地域をフィールドに教科横断的な考え方やグローバルな視点から実社会における課題解決のための探究活動に取り組む県立高校を支援する。また、各県立高校は研究成果を積極的に発信する。

地域や海外でのフィールドワーク等の体験的な活動を積極的に実施し、国際的な視点で地域課題を探究し、社会課題解決のための提言を行う。また、異文化理解や言語能力の向上を図り、将来、国際人に必要な資質を養う。

### (3) 県負担・補助率の考え方

国1/2(デジ田交付金)

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	5,095	外部講師謝金
旅費	7,810	外部講師旅費、教員引率旅費、生徒派遣旅費
消耗品費	4,581	探究活動材料費、文具、書籍
印刷製本費	557	成果報告書作成
会議費	13	講師飲料
役務費	255	ガイド料、デザイン料、郵送費
保険料	134	フィールドワーク、校外研修等傷害保険料
委託料	2,231	探究活動指導、ディベート講習、SDGsワークショップ
使用料・賃借料	4,194	借上バス、借上タクシー、発表会会場使用料
負担金	100	学会参加費
交付金	1,530	海外研修交付金
合計	26,500	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- ・第4次岐阜県教育ビジョン
  - 施策Ⅰ 「豊かな人間性」の育成
    - 4 「ふるさと岐阜」での活動を通して学ぶふるさと教育の推進
  - 施策Ⅱ 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成
    - 8 未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成
    - 11 国際理解教育の充実とグローバル社会で活躍できる力の育成
- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略 施策編
  - 1 「清流の国ぎふ」を支える人づくり
    - (1) 未来を支える人
      - ①地域や企業等と連携したふるさと教育の展開
      - ②地域の声を反映した産業教育の展開

### (2) 国・他県の状況

令和6年度から全学年で実施される新学習指導要領では、各教科での探究学習に加え、「総合的な探究の時間」や「理数探究」では、探究的学習活動を核として授業が展開される。また、新たな教育振興基本計画では、探究・STEAM教育、文理横断、文理融合教育の推進が示されている。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

地域課題を教科横断的かつグローバルな視点で探究することにより、課題を発見・解決する能力や国際的なコミュニケーション能力、AIやビッグデータ等の情報技術を活用する能力を育成し、地域社会を担う未来のリーダーの育成を目指す。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①地域や社会のために何をすべきかを考える高校生の割合	41.5%			45%	60%	

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 3 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内の高等学校において探究的な学習は実施されているが、質的な向上を図り、時代の変化に応じ、実施内容を改善する必要がある。そのため、本事業の指定校が先進的な取組を実施し、その成果を他の県立高校へ普及する。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 探究的な学習をとおして、生徒の資質・能力を育成することが求められていることに加え、地域と学校が協働することにより、高校生が地域社会に参画する意識・態度を身に付けることが期待される。現状の課題を踏まえ、各指定校の取組や成果を普及するため、指定校の取組についての評価や進捗を公表するとともに、学校間の交流を推進する。
---